b　土木工事

土木工事の実施により発生する廃棄物発生量、再資源化率及び再資源化量の予測結果（汚泥以外）は、表 12.2-19 に示すとおりである。また、発生する汚泥量は表 12.2-20 に示すとおりである。

土木工事に伴う廃棄物のうち汚泥以外の発生量は 815.4t、再資源化量は 793.9t であり、再資源化率は 97.4%と予測する。また、柱状地盤改良や山留に伴い発生する汚泥量は、約 32,000m³ と予測する。

表 12.2-19　土木工事に伴う廃棄物発生量及び再資源化量（汚泥以外）

廃棄物の種類	構成比（%）	発生量（t）	再資源化率（%）	再資源化量（t）
コンクリートガラ	92.2	752.2	99.9	751.7
アスファルトコンクリート	0.5	4.3	96.5	4.2
ガラス陶磁器	0.1	0.9	97.6	0.9
廃プラスチック	0.3	2.6	2.0	0.1
金属くず	0.5	4.1	73.2	3.0
木くず	0.4	3.2	96.0	3.0
紙くず	0.1	1.2	97.7	1.2
石膏ボード	0.4	3.6	11.3	0.4
その他	0.5	3.8	96.8	3.6
混合廃棄物	4.9	39.6	65.1	25.8
合計	100.0	815.4	97.4	793.9

注）1.再資源化率は、実際の処理工場により多少変動する。
　　2.端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

表 12.2-20　発生汚泥量及び再資源化量

用地	汚泥量（m³）	再資源化率（%）	再資源化量（m³）
①－a	約 17,000	100	約 17,000
②	約 10,000	100	約 10,000
③	約 5,000	100	約 5,000
合計	約 32,000	100	約 32,000

表 12.2-21（5）　建築工事に伴う廃棄物発生量及び再資源化量（Ⅰ～Ⅳ期合計）

廃棄物の種類	構成比（%）	発生量（t）	再資源化率（%）	再資源化量（t）
コンクリートガラ	22.1	2,222.0	97.3	2,162.9
アスファルトコンクリート	13.7	1,372.0	98.6	1,352.6
ガラス陶磁器	7.7	773.6	97.4	753.4
廃プラスチック	8.7	873.7	40.3	352.2
金属くず	4.4	437.7	77.4	338.8
木くず	8.7	874.0	97.7	853.9
紙くず	2.8	278.6	98.8	275.4
石膏ボード	7.6	766.4	29.5	226.0
その他	13.5	1,356.5	97.2	1,318.4
混合廃棄物	10.7	1,077.6	53.0	570.7
合計	100.0	10,032.1	81.8	8,204.3

注）1.再資源化率は、実際の処理工場により多少変動する。
　　2.端数処理のため、合計が一致しない場合がある。

（イ）建設発生土

工事の実施に伴い発生する残土の予測結果は、表 12.2-22 に示すとおりである。

用地①－a では 10,000m³が不足し、用地②では 14,270m³、用地③では 13,087m³の建設工事残土が発生すると予測する。

表 12.2-22　造成区分内訳表

用地	土工量（m³）			
	切土量	盛土量	現地発生土量	差引土量
①－a	65,787	139,941	64,154	－10,000
②	16,508	2,238	－	14,270
③	17,975	4,888	－	13,087
合計	100,270	147,067	64,154	17,357

（ウ）フロン類

解体工事の実施により発生するフロン類は、表 12.2-23 に示すとおり 1,110kg と予測する。

表 12.2-23　フロン類の発生量

種類		発生量（kg）
フロン類	万博記念ビル解体	310
	ホテル阪急解体	800
合計		1,110